

9月19日（土） 土曜活用活動の報告

今月から2月にかけて、大学、企業から講師の方を招き、講座数を増やして学びの場を広げていきたいと考えています。この日は開志専門職大学、JAPAN サッカーカレッジ、MFC 合同会社、新潟食料農業大学、株式会社総合教育研究所、新潟青陵大学、防衛省自衛隊新潟地方協力本部から合計11名の講師の方にお越しいただきました。

参加生徒は60名（1年生16名、2年生7名、3年生24名、4年生4名、5年生5名、6年生4名）でした。

【講座名】 日常生活からビジネス思考を身につけよう！～将来のための第一歩～

【講師】 開志専門職大学 星和樹先生

【受講生徒数】 9人

【講座の概要】

普段使っている商品や良く行くお店などを話題に取り上げ、将来必要となるビジネス思考について考える機会を提供してくださいました。講座の最後には、1人1人のビジネスプランを考えて発表し、とても盛り上がっていました。



ビジネスは様々な組み合わせで成り立っていると説明していただきました。

最後に、自分のビジネスプランを熱心に考えていました。

考えたビジネスプランを「大きな声で、ゆっくりと」発表し、様々なアイデアが出てきていました。

【生徒の感想】

- ・今回の講座を受けて、今求められていることは①良いものをつくること、②世の中に伝えることが大切だということを学ぶことができた。
- ・自分のアイデア以外に他の人のアイデアを聞けてとてもいい機会になったし、もっとこうしたら良くなりそうだな、と言う考えも頭に浮かびました。受けて本当に良かったと思える講座でした。

【講座名】 アルビレックススポーツの影響について

【講師】 JAPAN サッカーカレッジ 中村 勉 先生

【受講生徒数】 8人

【講座の概要】

サッカー、バスケットボール、野球、陸上など様々なアルビレックスのスポーツにおける地域への影響を「する」「見る」「支える」の視点で、実際の活動映像を用いて教えていただきました。



アルビレックスの活動にはどのようなものがあるのかを説明していただきました。

「する」「見る」「支える」の視点での活動映像を生徒も夢中になって見ていました。

アルビレックスが多くの方から支えられているチームだと知れた良い機会になりました。

【生徒の感想】

- ・アルビレックスには「日本初」がたくさんあって驚きました。特に印象深いのは「地方創生」についてのお話です。様々な活動があってこそ、たくさんの人たちに愛されてと、改めて感じました。
- ・日本で唯一他の競技も名前が統一されているチームとは知りませんでした。さらに、新しい取り組みを通して、海外進出が意外と多いことも知りました。

【講座名】自分の将来の夢に向けて今からできる事～目標成就シートを完成させよう～

【講師】MFC 合同会社 昆充芳 様

【受講生徒数】6人

【講座の概要】

「なぜ学校に来ているのか」、「将来の夢」、「なりたい仕事」、「何歳まで生きるのか」など段階的なお題から、最終的には目標成就シート用いて、それぞれ将来のためにどのようにしたらよいかを教えてくださいました。



七福神の本当の意味とは？
について生徒も新たな発見
があったようでした。

目標をかなえるためにすべ
きことを改めて考えてみま
した。

生徒も悩みながらも目標成
就シートを完成させ、自
分がどうあるべきかを再確
認していました。

【生徒の感想】

- ・七福神の教えや、目標をつくることの大切さを学びました。これからは、精一杯生きて、夢を持って自分を大事に生きていきたいと思いました。
- ・過去は過去として、未来を考えていこうと思いました。また、成功するために教わった3つのことをやってみて、これから生活していきたいと思った。

【講座名】 微生物が世界を支えている～実は目に見えない生き物が主役？～

【講師】 新潟食料農業大学 佐藤 豊三 先生

【受講生徒数】 3人

【講座の概要】

種類も数も動植物よりはるかに多い微生物がいかに世界を支えているのかをテーマに、様々な物質の循環において微生物がどのようにそれを支えているのかを教えてくださいました。また、具体的に私たちの生活の中で微生物がどのように利用されているのか、複数の例を挙げてご説明頂きました。



微生物の大きさについて、単位を細かく説明頂いた。

物質の循環に微生物がどのように関わっているか、真剣に耳を傾ける。



培養された菌が文字になっている！

【生徒の感想】

- ・微生物の種類や数の多さ、住める場所を聞いてびっくりした。微生物にはすごい性能があることを知って、人間が住むにはかかせない存在だと知った。
- ・まだまだ発見されていない微生物や、その働きが分かっていない微生物も多いので、今後自分たちが調べてみたいと思った。

【講座名】 地域資源を活用したビジネスプラン作り

【講師】 新潟食料農業大学 松村順二先生

【受講生徒数】 3人

【活動概要】

どの地域でも、地域資源に価値を加えるのは人の営みですが、その「人の営み」を中心において、地域資源を活用したビジネスプランのコンセプト作りをワークで体験させて頂きました。地域資源とは何か、ビジネスとは何か等基本的な考え方をご説明頂き、具体的なビジネスプラン作成の手順を教えて頂きました。



具体的に地域を取り上げながら説明。

映し出された地図やグラフとともにお話を傾聴し、うなずいたり質問に答えたり積極的に受講。



【生徒の感想】

- ・現状を考える→望ましい姿を考える→それを実現するにはどうするか、という手順によって、自分の考えが分かって問題点等が見えてきた。
- ・ビジネスプラン=金稼ぎではなく、ビジネスプラン=福祉であるということが分かった。これからも、社会の更なる向上のために努力を重ねたい。

【講座名】 途中まで成績が低かったのに、なぜ偏差値の高い大学に合格できたのか！

【講師】 株式会社総合教育研究所 石橋 正利 様

【受講生徒数】 17人

【活動概要】

ご息が慶応大学法学部に合格されたことを例に挙げ、物事を成功させるためにはどのような考え方を持てばよいのか、統計やグラフを用いながらお話し頂きました。



成績 UP の為の方法を
知ろうと真剣に受講。



理想の自分をイメージする
ことの大切さを生徒に
訴えかける。

生活にとり入れやすく、
心に響く熱いお言葉が多
いので、メモの手も進む。

【生徒の感想】

- ・何をするにも、まずは自分が成功していることを思い描くことが大切だと知った。そして成功するためには、心も一緒に成長させていくことも大事だと感じた。
- ・成功者と同じように振る舞うといった「疑似的な成功体験」が前向きな心を生み出し、行動を起こせるようになり、考えた通りの人間になるという話がとても心に刺さった。

【講座名】 自衛隊の活動について

【講師】 防衛省自衛隊新潟地方協力本部

阿部 浩二 様 長谷川 海 様 渡邊 絵理奈 様

【受講生徒数】 7人

【活動概要】

陸・海・空それぞれの立場から、主な活動内容ややりがい、志望理由についてお話ししていただきました。また自衛隊の活動だけでなく、夢に向かって努力することや、何事も諦めずに取り組めば必ず自分のプラスになることがたくさんあると、生徒の将来を激励していただきました。

【活動の様子】

真剣な表情でたくさんメモを



どんな意味があるのかを説明。



本校卒業生

【生徒の感想】

- ・被災した人々は、自衛隊と深い絆があると感じた。今後も自衛隊のイベントがあったら積極的に参加して、今回講演で聞いた話を更に深掘りしていきたい。
- ・高志の先輩で航空自衛隊に行った方がいることは知っていたけど、まさか女性だとは思っていなかった。貴重なお話が聞けて良かった。

【講座名】 体験しよう！絵本による自由な読みの交流

【講師】 新潟青陵大学 峰本 義明 先生

【受講生徒数】 6人

【活動概要】

自分の好きな本や絵本を手にとって、心に浮かんだ思いを交流しあいながら「読むこと」の楽しさや魅力についてお話していただきました。「ビブリオバトル」といった5分間で自分の好きな本を紹介し合うゲームなどを取り入れながら楽しく学ぶことができました。



ビブリオバトルで1番良かった発表者を決める場面。

自分の気になる本を好きな体制でじっくりと読んだ。



同じ場面でも人によって感じ方が違うことを学んだ。

【生徒の感想】

- ・今まで長い小説ばかり読んでいましたが、伝記や絵本にも面白さがあることに気がつきました。今回教わった本の読み方をこれからも生かしていきたい。
- ・「本を読むには2人が必要」という言葉が身をもって分かった。同じ絵本でも自分が気にとめなかった部分や、同じページでも違う解釈をして、他の人との意見が全然違うことが面白いと改めて実感した。

【講座名】 デザインから考える障害者福祉

【講師】 新潟青陵大学 海老田 大五郎 先生

【受講生徒数】 5人

【活動概要】

デザインという観点からだれもが平等に働くことのできる社会を目指した障害者福祉についてお話ししていただきました。デザイナーの仕事は30年後もなくなると言われる理由やデザインをするうえで最も大事なものは「一人一人のニーズに合わせる」ということを教えていただきました。



講師の方の著書を紹介。
学校の図書館にも置いてく
ださることになりました。

質疑応答の時間で更に福
祉の奥深さを学んだ。



誰もが幸せであるた
めの福祉

【生徒の感想】

- ・精神障がい者の就職が1番難しいと言われていることが驚いた。障がい者の仕事やデザインの大切さについて知ることができて嬉しかった。
- ・「時間を計る」というときに私は、タイマーを使用していてこれが1番分かりやすいと思っていたけれど、「砂時計」があるかと思った。一人一人のデザインについて今後生かして生きたいと思った。